

【鈍川】 木地

④5 榑原山 なま いばら



榑原山は、玉川町のシンボル。



馬神様と牛神様が祀られている。写真は馬神様



頂上近くにある手洗い石

榑原山は、玉川町内どこからでも三角の山頂が見え、頂上近くに多くの大木があるのが遠くからでもよくわかる。奈良原神社はこの山頂（1042m）にあった。開山は持統4年（689）と伝えられ、大変古い歴史を持つ。
高縄半島の山岳宗教の中心となり、修験道の行場として栄えた。神仏混合時代には、末寺を合わせて48人もの常住の僧がいたと言われている。牛馬の保護祈願としての信仰が厚く、縁日（旧暦8月丑の日と午の日）には今治だけでなく道前・道後平野や県外からも多くの参拝者があり大変賑わっていた。何本もある登山道・鳥居・頂上付近の手洗い石・手つかずの鎮守の森を見てもそのことがわかる。また、雨乞いに関係の深い明神もあり、崇拝されていた。

しだいに農業で牛馬が使われなくなるにつれて参拝者も少なくなりましたが、今も榑原山は、玉川のシンボリックな山と言える。
榑原山に登るには、多くの登山道（参道）があるが、現在は頂上近くまで車で行ける林道があり、車道の終点から歩いて30分足らずで頂上の奈良原神社に行くことができる。



頂上近くには広葉樹の森が残されている。



榑原山登山道の中で最も整備されている林道の登り口。